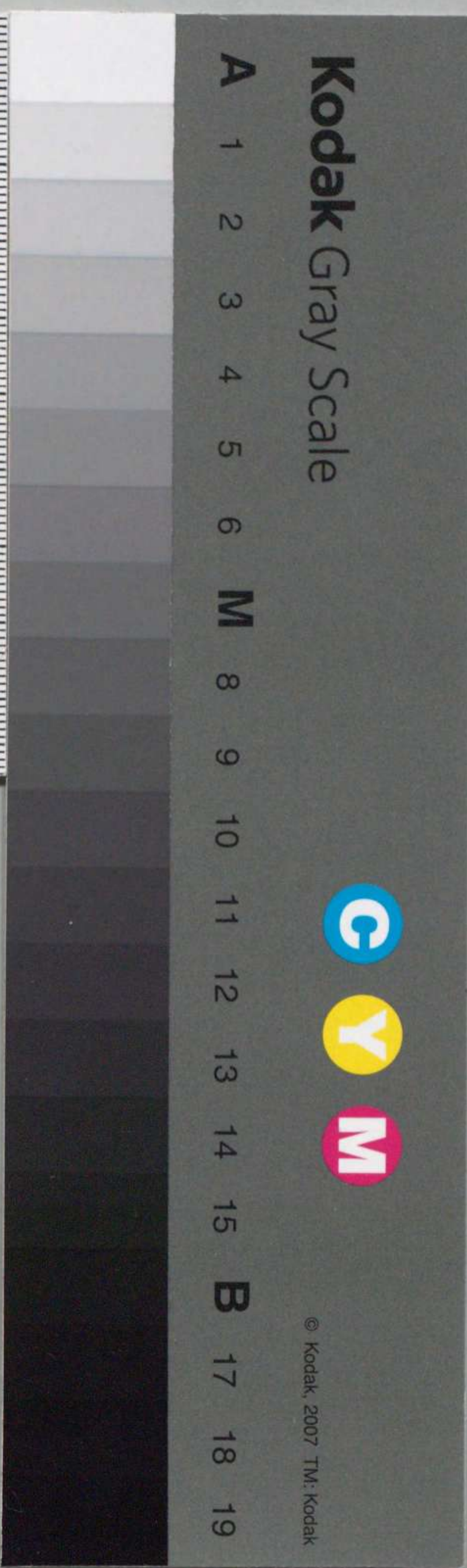


寛永諸家譜

越智氏
二卷之内

169

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186(149)		
函號	特	76	1





福葉

高原

河野

寛永諸家系圖傳

越智姓

福葉

河野の末流ありそ乃とさき
 孝靈天皇よりおころ天皇乃
 御子欽枝徳高よりく伊豫國
 へ遷居しそ海より
 伊豫の守子と名付それ子お孫
 て縁列越智部より領と致り

淺草文庫

塩麩しんぼ

小千の沙さ子こと名なはく子こ孫そ越こ急きを
河かの姓せいとすその後のち胤いん玉たま眞まり
いりりりりりりりり河野のと号ごうと
三十さんじゅう傳でん世せの後のち氏し族ぞくとれて法はふ列りつ
りりりりりりりりり健けん瑞ずいあり
よもりて梅うめ葉はをりりりりりりりりり
とん
一いっ説せつり濃のう川がわ梅うめ葉は山の下もとは
伝でんりりりりりりりりり梅うめ葉はと称しょうととふ

某

ゆて梅うめ葉はと号ごうと別べつ中ちゆうと大だい角かく某まの女をんなを娶めと

大京進たいけいしん

某

野の可か次じな某

之歳さい少すくて父ちちりりととくく故ゆゑに家いへ督とく
ととににくく守しゅ

女子

赤坂内あかざかうちの利りととまま 春日かすがひの局まごの母はは

来

海うみ中なかつ守しゅ

一織ひとりの

伊い豫よ也や

織オリ田た信のぶ長なが豊ゆき長なが秀ひで吉よしににつつくく我われ田た也や

貞通まこと

大おほ京みやこ亮あきら

重通しげと

兵庫頭ひょうごのかみ 巨おほ五ご位ゐ下した一いち一いち叙しよ也や
秀ひで吉よし一いち進しん侍じ也や

正成ただなり

内うち通と 依よ濟しづ也や

實を相駿河守が孫越兼つ子あり正成
らぐの代名は市肥 後八代
相氏濃列七條の城に居福兼一鉄
ハ濃列常根の城に居安城の地あり
師らら救ふ合戦あり及やとの地
色雄雄決せし一鉄が家老兼部大兼
相議し安家をして和睦せし正成
をり川で重通の堵と民是る福兼
氏りあり一心

天正十二年尾列長久寺合戦より
出陣と

同十三年象列子石場合戦の記
正成諸人可しとさきとらて城際より
池付謀之と云諸人それ勇志を
感む

朝鮮陣の時正成筑前中納言秀秋
一属して海をわたり歎水大御
可しとらし時可し秀秋が

家老伊左雅樂次歌にお接し
麻を明らぬ三成長教を教して
勇名をあらし守中河の首長
尉山の城あり大歌これさせ
日本諸将けて是とさふ
歌返河三成長教人
らにすみ漆兵一人を突こりて
陣り守り河の黒田甲斐守長政只
一騎馳馬り三成長教を
見く作とさふ

三成長教を告長政これか
進りを感じてたふし
お物
〜 校目の院校と
三成長五年上夜系勝謀叛の時
東照大権現伏見より進發し
東征し早し三成長秀秋が使
とらり〜 山陽道河原を
あていらく上方り
報達乃志あ
らば秀秋より〜 忠節をつ

と一丁ありて兵隊原野より
さし切をうけし事ありて播磨
姫路の城を秀能の兄木下右衛門守
延俊が守りて下なる城がくは
此城を借ん

大指現これをゆきし事ありて
延俊ありてきりす故り秀秋
大指ありて和を討て十九歳なる
正成これが為よそれを借る乞

よも秀秋と延俊交を絶

石田三成逆謀をくはつて宇治
秀家長弟正家大若者継小西行長
安国寺惠瓊等とお儀し秀秋が許
し使を川つりていし秀頼
十歳以前天下をめぐり秀能
よ各附し筑前筑後し精磨の
國をくく知りて一丁又
に別の日しをひて十萬石あり

黄金之百枚をのりて正成よりあ
ふべしとひして誓詞をのりて
其之業の遠く事とあり
しとありしと色秀敏これよき
つは時より正成秀秋より説く
伏見の城より使をつつて秀敏
政取及び秀秋が父肥後守をのり
質をて本丸に入西丸をけ家
をてまひつていし

時より城番鳥井元忠ありて
ゆるく守安りしと正成付
て鳥井と同答しり母之元忠の
遂よりきつて秀敏よりいひて
やいしをゆびて賊徒と同し
伏見の城をせしきりといひ其
ころころ関東ありありとあり
正成も秀敏より説て毎日おそ
飛脚をつつて黒田守山

道河津墨野江雪をの川く上立
事を治進して内應と伏見の城
没落の故石田三成秀秋をして別
津の城より赴くといふとも秀秋
うろよ眼を以て園地荒れゆく
て江別高文に陣をうきよめ
く三成等秀秋をの川く二回あり
とて河を大谷吉継作和山の城より
秀秋を欺きしとて一とて使を

つり星をまひくとも秀秋
あてゆき守殿より平塚固備守之田
武蔵守使志と有りて高文より
秀秋より對面せんとも三成を
いつらりてうら人事を察し秀秋
をて病と称してあはせしむ
是よりうらくあ使いし
すてあしく秀秋柏原より陣を
うらと賊徒おらりし秀秋の陣を

せりんとし正成すからら徳士とお儀
して兵をり川に濃列しり
松尾山の新城に入て城を築き
と逐河り九月十四日なり十五日南ヶ
原合戦の首秀秋

大指現と大り謀て大岩が陣をせし
正成平家石見守と同く先登し
平家をお殺し利をうりし正成を
はごめ殺し大り是を破り賊流

こせくは敷之と後り秀秋

大指現し洋湯しそてり

大指現秀秋及び正成をりて軍四

を感英しそまふ

十六日の朝

大指現の物命しりしりて作和山乃

際をせし城中の兵鉄炮をたし川味

方死しりるをりしりてすしり

あらしす正成等不確也色り近付

つとめ我て退く

十七日

大樽現正成り 沙書をそゆら我

初を感しこゆら村越茂也久副州

あり

元和元年大坊沙陣の時正成曰有

亦七日より牧方をまもり 物命了

よりて濃別信列の兵士着干を

の川へ家へ属せしむ正成小成

つら隊率をして沙旅館にたたま

居志かんすといふも隊率何くも

がら其翌日永井永吉東の宅中七郎

事りて是を見ても其事を之上

とら又たし沙感あり落城の時正

成毅の首着干を飲す

同四年二月越後国糸井川を以て

一万石の地をく之を分ちりすく

二万石を飲す

果

之十郎 十兵衛

寛永四年糸井川をあらとめく
下野國其邑を飲止
同年十二月辰巳位下月叙
佐渡守并仁寸
同五年九月十七日率と歳
み十八法名道花 理徳院と号止

女子

正次

大指規濃列七條ハ正成が旧里うらや
写石て林氏の本飲なりやしてその
地千石をそし海ふ

堀田勅た集の妻 加賀守正盛が母

八右衛門

正重しげ

市五郎

正定しやうてい

治左衛門

正勝しやうしやう

丹後守たんごのし とうり 丹後守 治左衛門

京都

了しやう 母はは 春はる 日ひ の 局まご

將軍家の沙乳母とありて恩遇おんぐ 多おほ しく

あり

正勝八藏しやうしやう ありてほごめ

將軍家よつとありてあり

元和九年八月二日げんわ 辰あした 五ご 位ゐ 下げ 叙ぎよ

丹後守たんごのし ありてあり

同年おなとし 常とこ 別わか 柿かき 屋や ありてありてあり

地ち ありてあり

同奉新職より列して政務より
頼らば書に判をくまふ

寛永元年常列兵衛よりまひて五
千石の地をくくつまふ

同二年上列作野よりまひく一万石
地をくくたまふ

同五年父正成が遺領を継いで野列
兵衛をくくまふをばらまひては美
石を飲と

同九年か者肥後与罷ありて願国せ
らるる時正勝使節よりして付く能本
の城よりけ丸国中の石を定て戸
一戸あり

同年相列小田原の城をすくはるる
四万五千石を和信一都て八万石
石を飲と止と役をのりて城壘を修
理と又狗命よりけて若根の園を
ほりて是要地なるまらしてあり

正房

出雲守

越前冬儀忠尚

女子

朽木民部お備が妻

正吉

権作

將軍家より川へ

正則

龜子代 義濃守 中園氏

寛永十一年正月廿五日 父正勝

卒と何れ井俣掃部以酒井新永次

古井大炊以酒井續政等 幼命を

うけとまら正則をして道徳を継

一の小田原の城再にも方家之れ地と

町十二歳

同年六月

果

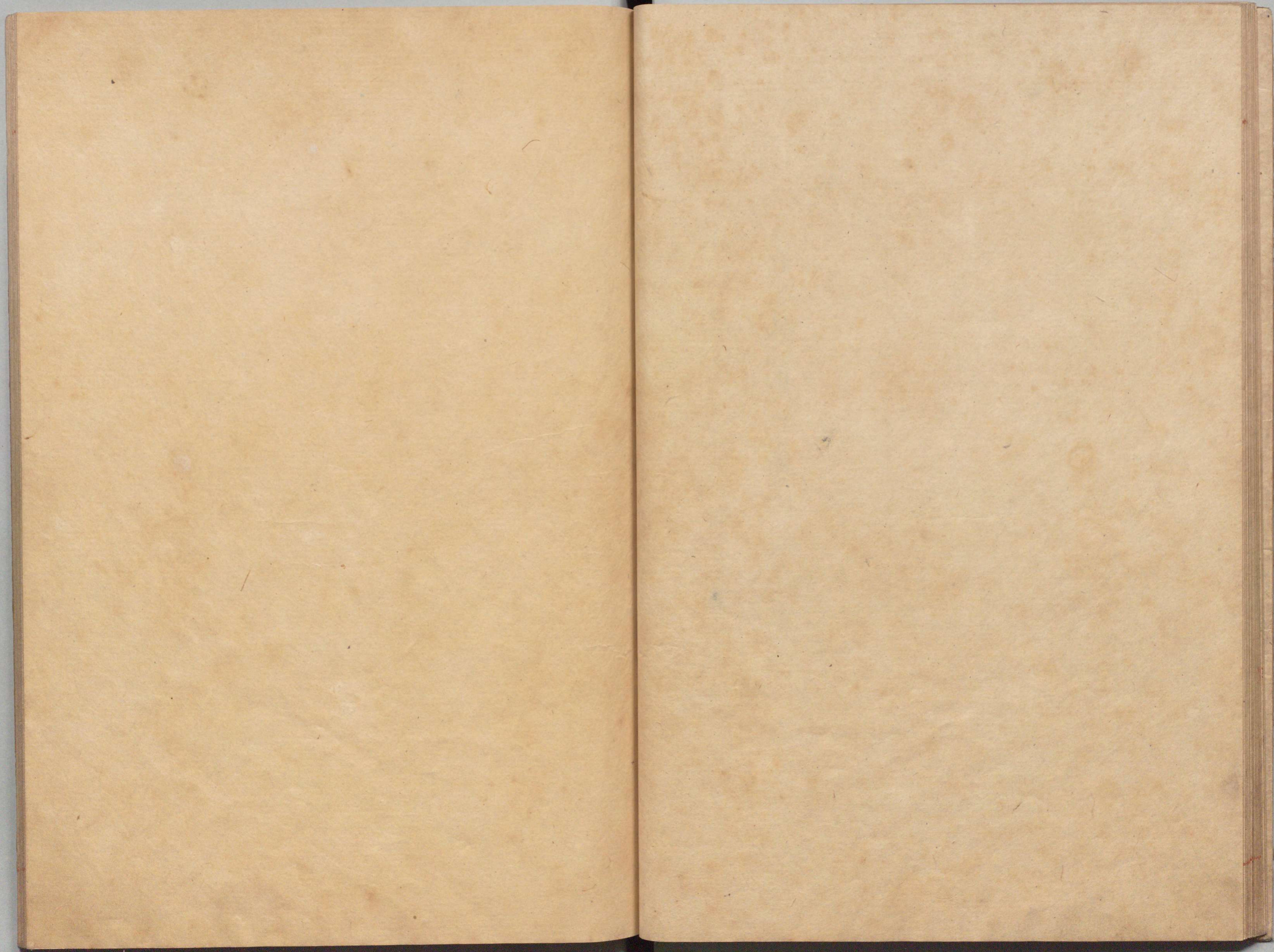
將軍家沙上洛の付小田原乃城
渡御あり河正則沙腰成缺
還沙の付も又あり

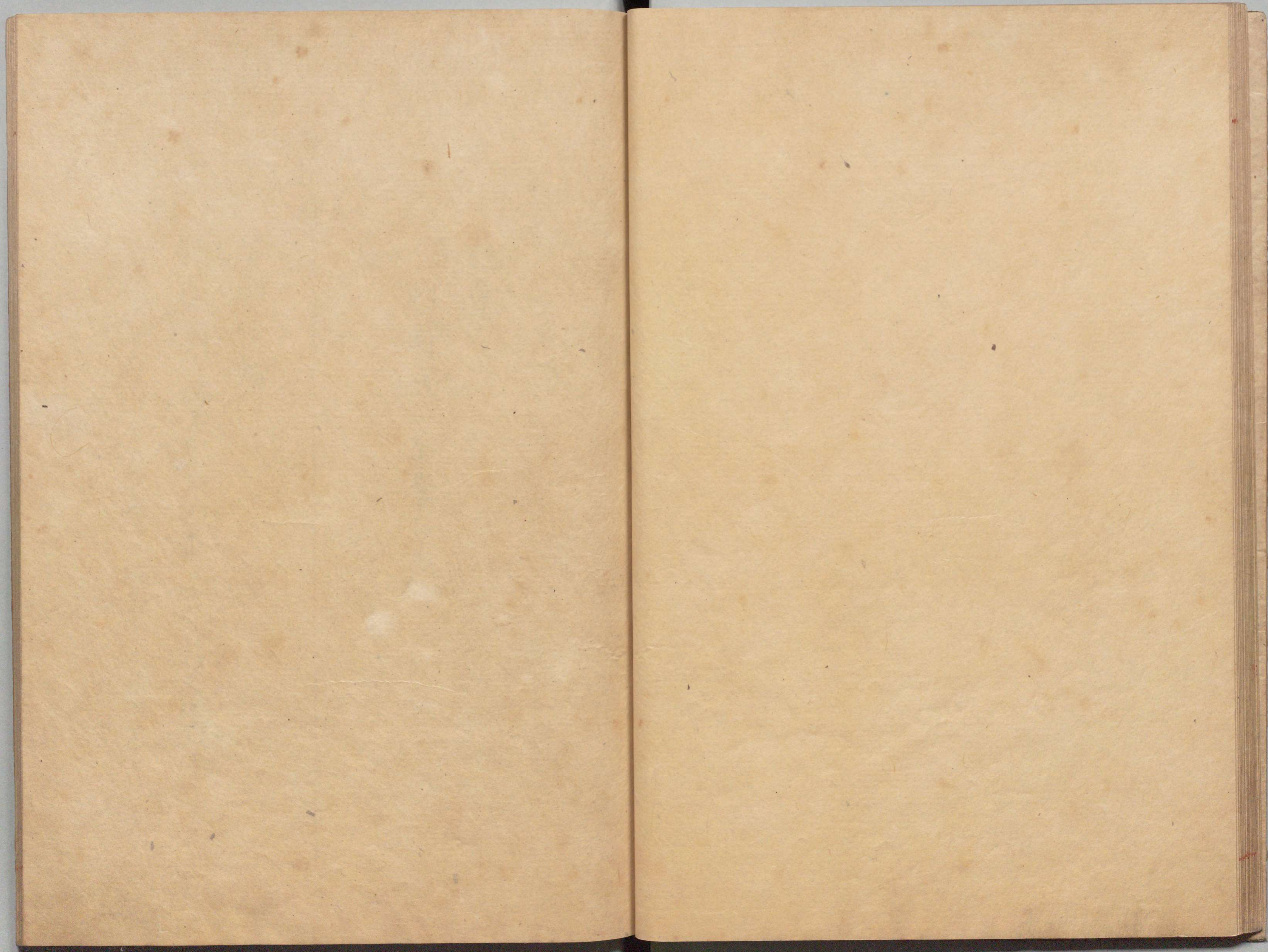
同年十二月十九日
長五郎下ノ叙
羨濃ちり仁比

宇古惠の尉 中園同前

母を冬儀毛利甲斐守秀元しんごの女

家の紋角折交に之文字





●
塩塵 えんじん

中国 ちゆうごく 倭 わ 縁 えん

後 のち 濃 のう 別 べつ 稻葉山 いなばやま の の 下 した へ へ 移 うつ 長 なが 坂 さか 故 こ 郷 きやう

河 か 野 の を を あ あ る る 一 一 つ つ の の 一 一 つ つ へ へ 移 うつ 長 なが 坂 さか と と な な り り す

稻葉 いなば

河野 かの 氏 のうぢ の の 苗 なえ 裔 ゑい あり

果

右京子 早世

果

備中守 早世

一鐵

伴祿守 中園英徳

女子

くろくは信長よつと後秀吉乃命は
もつて之位法印に叙し濃列
常根を飲せし七十回あり
卒す

赤坂山城守の妻

貞通

大京亮 中園義濃

重通

ほづつは伝書よは之のち秀名乃
おほせりしりてはに位下り
叙し侍長りし記と
法別書根より同回部とより
我を故又
東照大権現の御命よ無じそ那上
より豊別細杵り移る位と
五十八ありて卒と

兵庫頭

秀名よは之は位下り叙と

果

右近太史

大権現の御命よは之のち尾別
義重より濃別令山り
記と

某

勝古東の尉

女子

國枝之河守の妻

女子

堀毛半左の妻

女子

丸毛之郎兵衛の妻

女子

道通

左近衛大 延五位下 叙を

ちがはる秀吉よはく之豊長乃姓を

そと甲ふそめら

大指現^ア一^クに^クく^マつ^リ 関原の
沙陣^カの^ト時^ト勢^ト列^トり^トを^シひ^ク九^ク鬼^ト
大陽^オ守^ト成^トせ^テめ^ク軍^カ四^カあり

紀通

淡路守 辰五位下^トり^ト叙^ト

典通

辰六郎 中園美濃

秀吉の^ト始^トり^トより^トて^ト辰^カ位^カ下^カり^ト
叙^ト一^ト侍^ト辰^カ位^カ下^カり^トを^シ後^ト細^ト柄^ト下^カり^ト
也^ト一^ト六^ト十^ト一^トあり^トて^ト卒^ト

通考

辰五位下 中園美濃

辰五長五年

大指現^ア一^クに^クく^マつ^リ 関原の
沙陣^カの^ト時^ト勢^ト列^トり^トを^シひ^ク九^ク鬼^ト
大陽^オ守^ト成^トせ^テめ^ク軍^カ四^カあり

名瀬院敵り一属し一々一川分
法別部上城乃軍四一り一り一
なりそ乃ら父太系亮掃葉家
傳乃馬吊をゆつ
同十一日伏見一をいへ卒と

通照

十左衛門尉 中園山城
二歳より父小はなれ伯父朝六郎

来

了書育せり通照幼少より
らりて快理亮の地頭六是を承り
寛永元年江戸より一
名瀬院敵り一錫見一
將軍家より一をいへつら地
七百石を給ふ
掃葉家の馬吊今一是を所持と

忍次郎

某

大学

女子

柴田伊候の妻

女子

織田之右の妻

女子

赤尾赤物之妻

一通

民部お捕 中園美濃

名徳院殿のおおせよしりてはみ徳下に

叙し是列白杵より約と五十八

歳めしそ年と

女子

本多備前守が妻

女子

飯沼出雲守が妻

女子

盛方院が妻

信通

能登守 中園忠俊

將軍家の御月守よりく 長五郎下

了叙一 豊別白杵小伝

某

た京を 早世

某

織部佐

某

もんの
之胎心

女子

溝口出雲守の妻 早世

女子

日根野次右衛門尉の妻 早世

女子

女子

女子

某

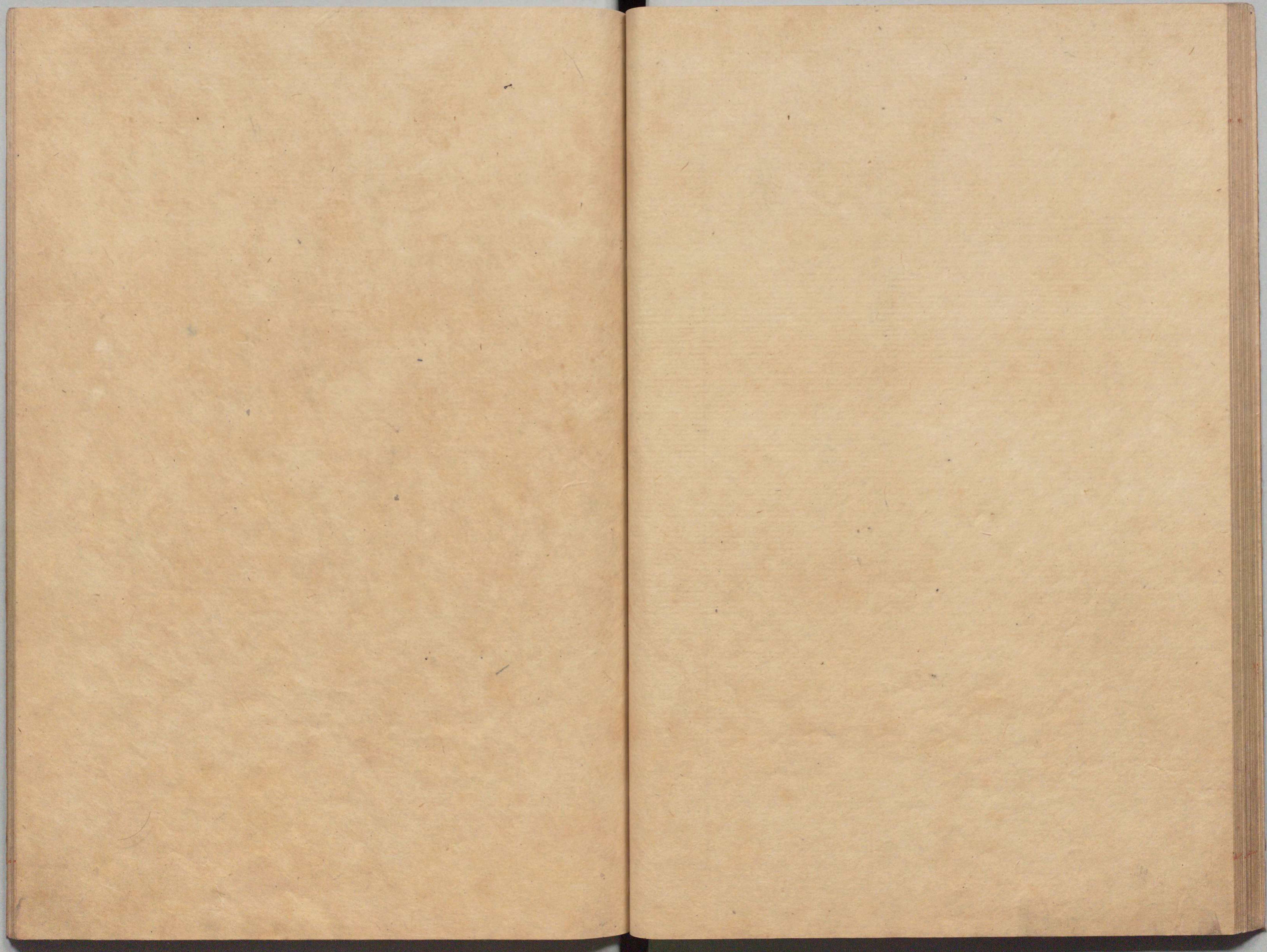
虎物 牛國武蔵

女子

女子

家の紋 角折友之文字 信長より

桐の紋をそとす



河野

● 通信つうしん

童名花松丸わらわなはなまつまる 世は河野の
後小条時政ごせのときまさ 尊たかしと名ななり

通久つうきゅう

九郎くわらう 四郎しらう

通继つうけい

九郎くわらう

通有ちゆうゆう

六郎 對馬守つしまのりょう

通治ちゆうぢ

九郎左衛門 對馬守つしまのりょうざゑもん

通朝ちゆうてう

遠江守とほづのりょう

通堯ちゆうてう

徳王丸六郎 法名津岳つたけ

通之ちゆうぢ

鬼王丸 對馬守つしまのりょう

通元ちゆうげん

六郎 民部太輔たみべのたふ

通春ちゆうしゆん

大法師 伊禰守 法名隣松院りんそうゐん

通安ちゆうあん

七郎 兼前守 法名惠運ゑいん

通房すうぼう

九郎

下総守きつねのり

法名丹山にげん

通政すうせい

豊前守

とくろく

中国甲斐ちゆうごく

武田信玄たけだののぶひら

はたけ

相列あいにら

小糸家こいせ

はたけ

又また

つゆ

病やまひ

歳とし八十九

法名津安つやす

盛政もりせい

勝左衛門尉

東照大権現とうしょうだいこんげん

はたけ

元和三年十一月五日げんわの三年十一月五日

法名崇徳たかあき

照長てるなが

新太郎

七回日女

寛永十二年

將軍家より此之

通重

指右衛門尉

大指環を

右陸院殿

將軍家より此之

鉄砲

与力同

通利

左衛門尉

將軍家より此之

通成

左門

寛永六年二月

將軍家より此之

家の紋柄の内の文書



河野

伊豫國河野通遠が後なる

氏名

友成 中尾 浪

ちしは信長及秀吉に

参り長五年関ヶ原沙陣の後

大権現に仕へし

元和二年八月十七日一死也
九十 法名道永

氏房

唐在惠 中園回前
村と園防守一はふ
元和二年五月四日一死也 歳五十一
法名秀安

氏勝

檜兵衛 中園か候
らどつ月村と園防守一はふ候
おくれ
右徳院殿一はふ
寛永四年四月八日一死也
三十八 法名一花

氏利うじり

有在憲

生國越後なまくに

將軍家より此之をくまら

氏朝うじとも

信義

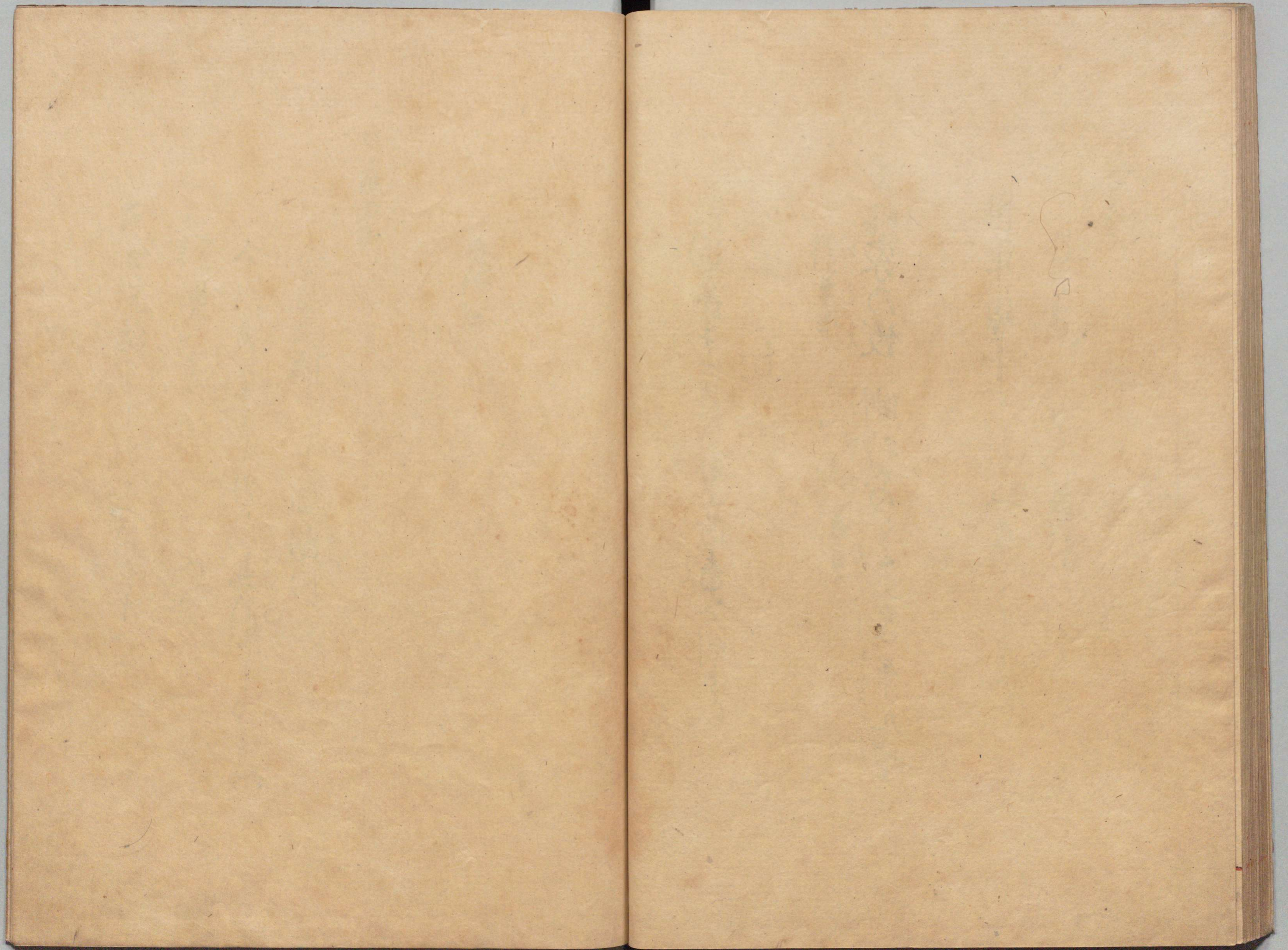
生國信濃なまきの

寛永十二年八月

將軍家より此之をくまら

同年十一月より沙書を刊す

家乃致いえのち 剛たけ 竹たけ 安やす 之の 文ぶん 孝たか 并ひら 九く 曜よう



高原い

●
吉重よししげ

九左衛門尉

廿四駿河にじゅうしげんが

今川氏真いまいがわじまことより所ふ其後そののちより金かねされ

大樽おほづゑ現まはるまるる

右徳院敵みぎとくゐんたかみより所へたまるるまるるる

吉時よしとき

九左衛門尉 廿四日亥

右衛門尉 廿四日亥

元和元年 三十一日戌 少て死す

吉勝よしかつ

九左衛門尉 廿四日戌

右衛門尉 廿四日戌

吉政よしまさ

右衛門尉 廿四日亥

寛永十年

將軍家より 孫 孫 孫

家の紋 孫 孫 孫

